

◆ 職場における熱中症による死傷災害の発生状況 ◆
(令和2年 広島労働局)

1 職場における熱中症による死傷者数の推移 (平成22年～令和2年)

平成22年～令和2年の職場における熱中症による死亡者及び休業4日以上業務上疾病者の数(以下合わせて「死傷者数」という。)をみると最少は3人、最多は32人となっており、令和2年は24人となっている。

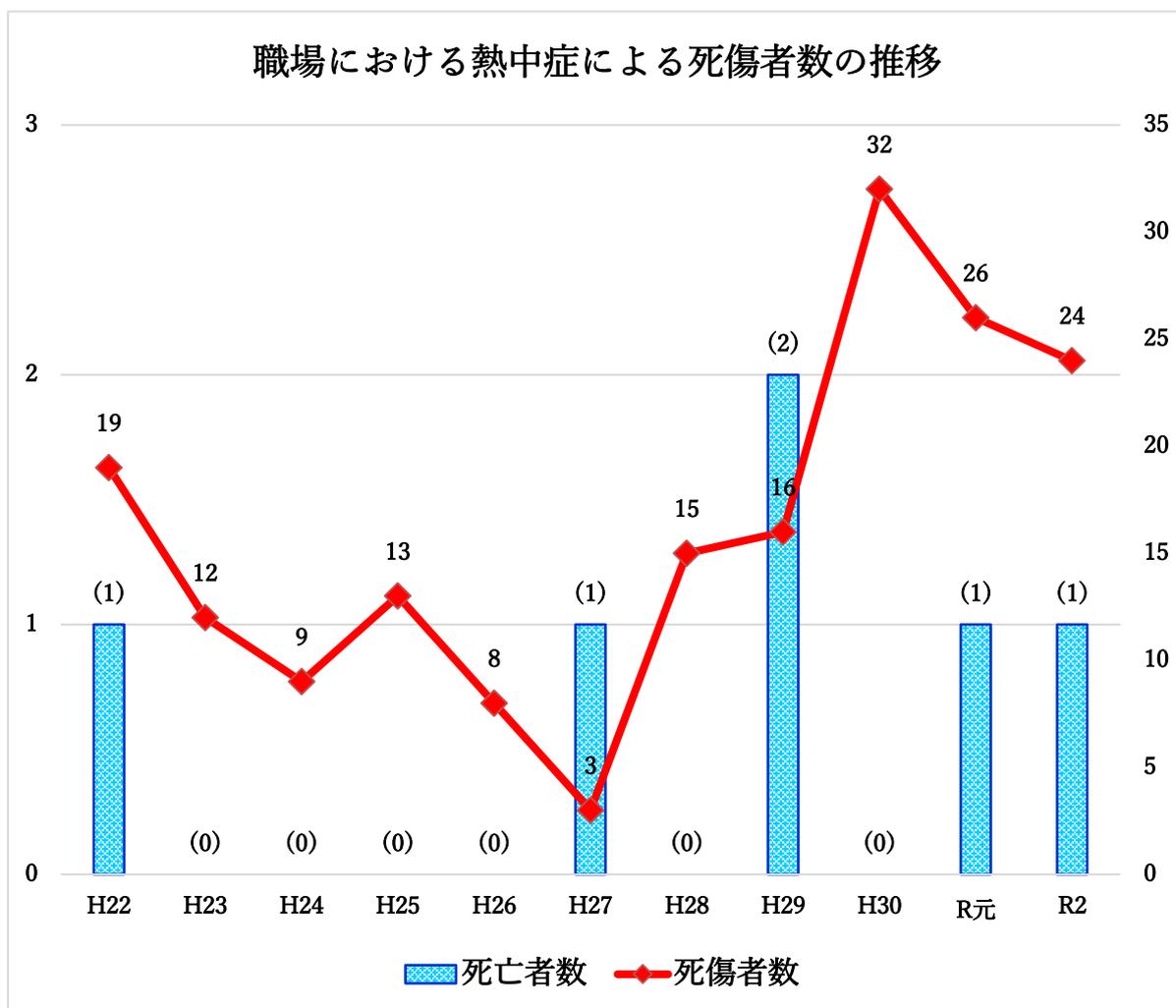
令和2年の死傷者数は、対前年同期で2人、7.7%の減少となっているが、ここ数年は猛暑が続き高止まりの傾向となっている。

死亡災害は、2年連続で1件発生している。

▶ 職場における熱中症による死傷者数の推移 (人)

H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
19	12	9	13	8	3	15	16	32	26	24
(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(2)	(0)	(1)	(1)

※ () 内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数。



2 業種別発生状況（平成22年～令和2年）

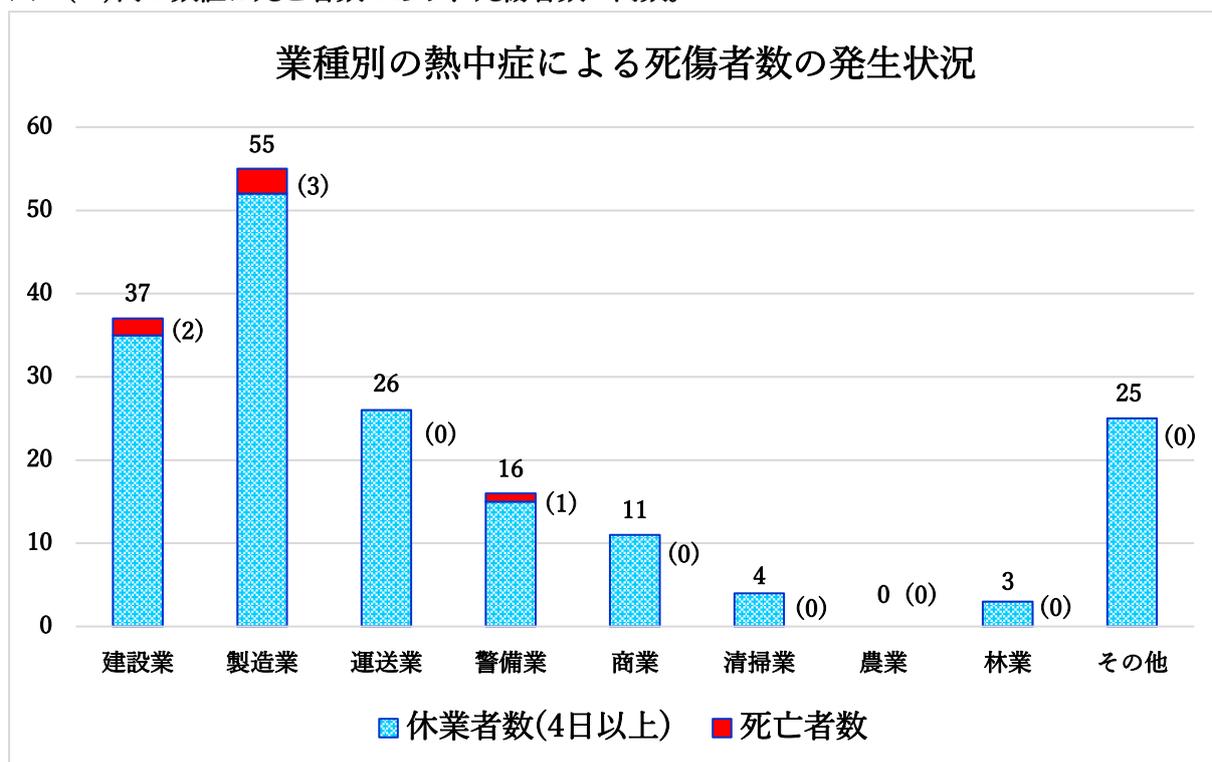
平成22年～令和2年の業種別の熱中症による死傷者数をみると、製造業が最も多く、次いで建設業で多く発生している。これらの2業種で全体の5割以上を占めているが、近年は警備業においても増加傾向が認められる。

令和2年は、製造業が最多で8人、運送業が4人、建設業、警備業がそれぞれ3人となっているが、死亡災害は製造業で発生したものである。

▶ 熱中症による死傷者数の業種別の状況（人）

年 業種	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	合計
建設業	4 (0)	3 (0)	3 (0)	5 (0)	3 (0)	0 (0)	3 (0)	6 (2)	4 (0)	3 (0)	3 (0)	37 (2)
製造業	5 (1)	4 (0)	4 (0)	3 (0)	3 (0)	0 (0)	5 (0)	7 (0)	7 (0)	9 (1)	8 (1)	55 (3)
運送業	3 (0)	3 (0)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	8 (0)	1 (0)	4 (0)	26 (0)
警備業	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	5 (0)	3 (0)	16 (1)
商業	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	11 (0)
清掃業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	4 (0)
農業	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
林業	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)
その他	2 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	0 (0)	7 (0)	4 (0)	4 (0)	25 (0)
合計	19 (1)	12 (0)	9 (0)	13 (0)	8 (0)	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	177 (6)

※（ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数。



3 月・時間帯別発生状況（平成22年～令和2年）

(1) 月別発生状況

平成22年～令和2年の月別の熱中症による死傷者数をみると、全体の約8割以上が7月及び8月に発生している。

令和2年も同様に7月、8月で多く発生しているが、早いものでは5月に発生したものもある。

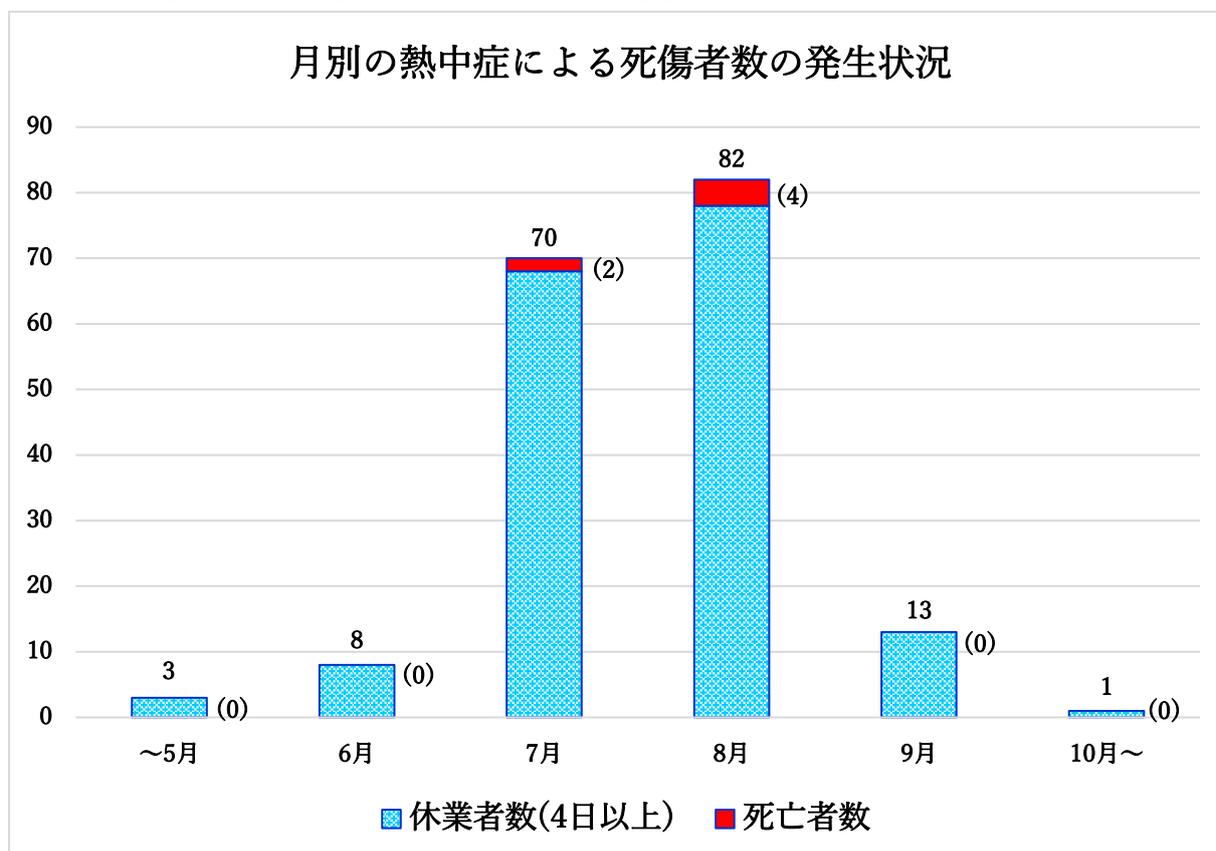
死亡災害の発生は7月、8月に集中している。

▶ 熱中症による死傷者数の月別の状況

年 月別	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	合 計
～5月	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	3 (0)
6月	0 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	8 (0)
7月	4 (0)	4 (0)	4 (0)	6 (0)	5 (0)	1 (0)	10 (0)	7 (1)	18 (0)	9 (1)	2 (0)	70 (2)
8月	13 (1)	4 (0)	5 (0)	6 (0)	3 (0)	2 (1)	4 (0)	8 (1)	11 (0)	8 (0)	18 (1)	82 (4)
9月	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	7 (0)	1 (0)	13 (0)
10月～	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
合 計	19 (1)	12 (0)	9 (0)	13 (0)	8 (0)	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	177 (6)

※ 「～5月」は1月から5月まで、「10月～」は10月から12月までの合計。

※ ()内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数。



(2) 時間帯別発生状況（平成22年～令和2年）

平成22年～令和2年の時間帯別の熱中症による死傷者数をみると、14時台からの増加が顕著で17時台まで高止まりの状態が発生している。作業終了後の帰宅中又は帰宅後に体調が悪化し、夜間病院へ搬送されるケースも散見される。

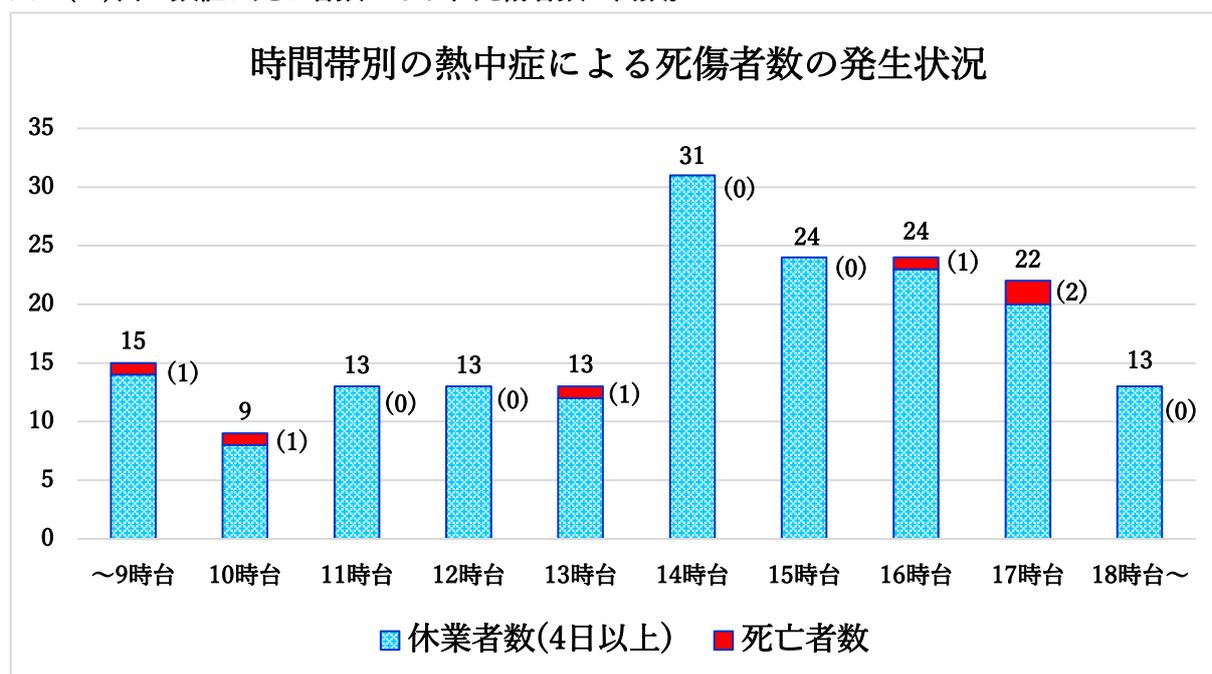
令和2年も、13～17時台（午後）で多く発生している。

▶ 熱中症による死傷者数の時間帯別の状況

年 時間帯別	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	合計
～9時台	3 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	4 (0)	1 (1)	15 (1)
10時台	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (1)	1 (0)	9 (1)
11時台	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (1)	3 (0)	2 (0)	2 (0)	13 (0)
12時台	2 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	2 (0)	0 (1)	3 (0)	1 (0)	1 (1)	13 (0)
13時台	1 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	3 (0)	2 (0)	13 (1)
14時台	1 (0)	1 (0)	2 (0)	5 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	2 (0)	7 (0)	5 (0)	4 (0)	31 (0)
15時台	2 (0)	4 (0)	1 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)	3 (0)	2 (0)	4 (0)	24 (0)
16時台	3 (1)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	3 (0)	4 (0)	3 (0)	4 (0)	24 (1)
17時台	3 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	4 (2)	3 (0)	3 (0)	2 (0)	22 (2)
18時台～	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	3 (0)	13 (0)
合計	19 (1)	12 (0)	9 (0)	13 (0)	8 (0)	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	177 (6)

※ 「～9時台」は0時から9時台まで、「18時台～」は18時から23時台までの合計。

※ ()内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数。



4 経験年数別発生状況（平成22年～令和2年）

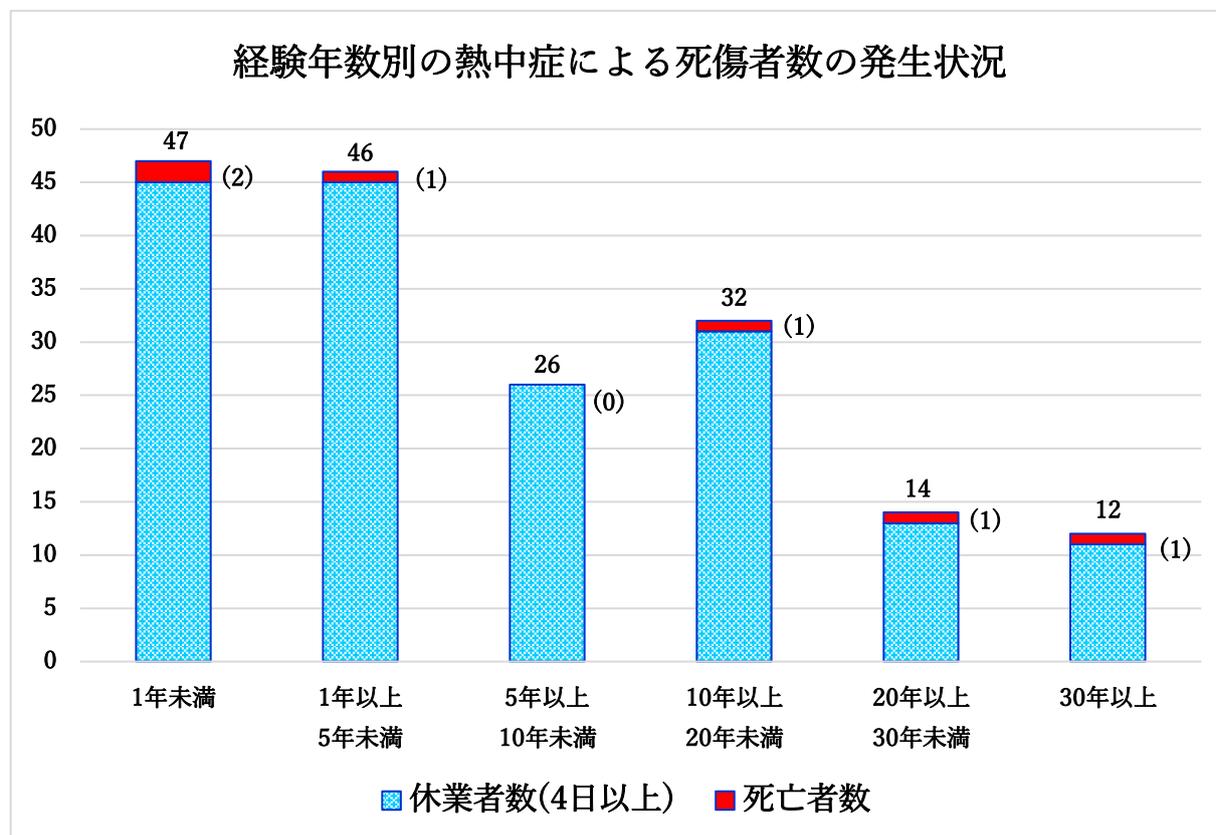
平成22年～令和2年の経験年数別の死傷者数をみると、1年未満が最多であり、次いで1年以上5年未満が多い。経験年数が5年未満までの死傷者が全体の5割以上となっており、熱中症予防の教育・研修の実施が重要である。

令和2年は、1年以上5年未満と10年以上20年未満が同数で最多となっている。

▶ 熱中症による死傷者数の経験年数別の状況（人）

年 時間帯別	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	合計
1年未満	4 (0)	3 (0)	2 (0)	3 (0)	2 (0)	2 (1)	4 (0)	5 (1)	12 (0)	7 (0)	3 (0)	47 (2)
1年以上 5年未満	5 (0)	2 (0)	3 (0)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	5 (1)	10 (0)	7 (0)	7 (0)	46 (1)
5年以上 10年未満	2 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	3 (0)	6 (0)	6 (0)	26 (0)
10年以上 20年未満	2 (0)	0 (0)	1 (0)	4 (0)	0 (0)	1 (0)	5 (0)	5 (0)	4 (0)	3 (0)	7 (1)	32 (1)
20年以上 30年未満	3 (1)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	14 (1)
30年以上	3 (0)	4 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	12 (1)
合計	19 (1)	12 (0)	9 (0)	13 (0)	8 (0)	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	177 (6)

※（ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数。



5 年齢別発生状況（平成22年～令和2年）

平成22年～令和2年の年齢別の熱中症による死傷者数をみると、すべての年代において熱中症が発生しているが、最多は40代、次いで50代の発生が多い。また、60代以上の死傷者数も全体の25%以上を占めていることから、高年齢労働者への配慮が必要である。

令和2年もほとんどの年代で熱中症が発生し、60代で死亡災害が発生している。

▶ 熱中症による死傷者数の年齢別の状況（人）

年 年代別	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	合計
10代	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
20代	2 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	4 (0)	2 (1)	8 (0)	6 (0)	4 (0)	29 (1)
30代	1 (0)	1 (0)	3 (0)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	2 (0)	3 (0)	19 (0)
40代	5 (1)	4 (0)	0 (0)	5 (0)	3 (0)	0 (0)	2 (0)	9 (0)	5 (0)	7 (0)	4 (0)	44 (1)
50代	4 (0)	2 (0)	4 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (1)	3 (0)	2 (1)	8 (0)	6 (0)	7 (0)	39 (2)
60代	6 (0)	4 (0)	0 (0)	4 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	5 (0)	3 (0)	4 (1)	31 (1)
70代以上	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	2 (0)	3 (0)	2 (1)	2 (0)	14 (1)
合計	19 (1)	12 (0)	9 (0)	13 (0)	8 (0)	3 (1)	15 (0)	16 (2)	32 (0)	26 (1)	24 (1)	177 (6)

※（ ）内の数値は死亡者数であり、死傷者数の内数。

